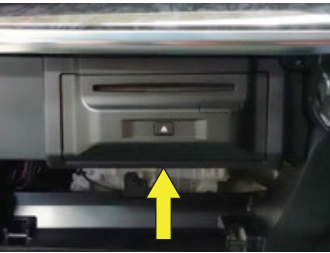


3.ケーブルAの接続

純正DVDデッキの28ピンカブラーを抜き、付属の車両接続用ハーネス(ケーブルA)を間に割り込ませるように取付けます。(別紙「■配線図」参照)



(※純正DVDデッキを取外す必要はありません)

純正デッキの下側から
背面のカブラーを見上げる



3つ並んだカブラーの運転席側を抜く



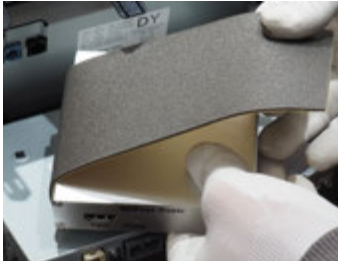
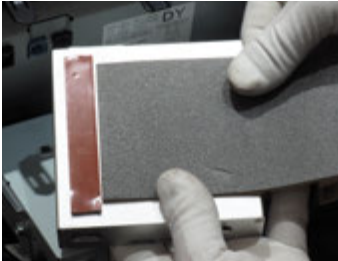
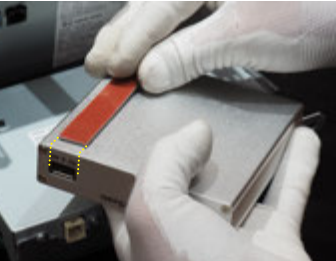
付属の車両接続用ハーネスの28ピンを取付ける

接続するカブラーに注意してください！

ケーブルAのカブラーは、3つ並んだカブラーのどれでも接続できてしまいます。
間違えて接続するとナビの動作不良、故障の原因となります。接続するカブラーには十分ご注意ください。

4.HVX本体の養生

付属の両面テープをHVX本体裏側に貼り付けます。(左写真参照、USB端子を目印にします。)
付属のウレタンシートを両面テープを目安にして貼り付けます。(中央写真参照)
本体ケースの周りを1周巻きます。(右写真参照、ウレタンシートの余りはカットします。)

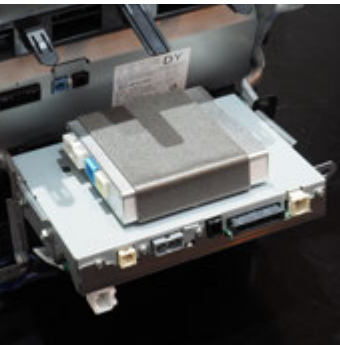


6.HVX本体の設置

HVX本体の設置位置は任意です。
純正機器の可動部や配線に強いテンションがかかる設置位置を避け適宜養生をして設置してください。

<HVX本体設置位置の推奨>

写真と同じ向きになるように、純正モニターの裏側に本体を設置します。
(純正モニターを裏側からみて、HVX本体のハーネス接続カブラー・GVIFカブラーが左側)

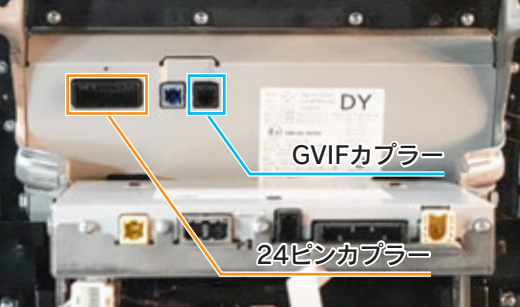


7.車両接続用ハーネスとGVIFケーブルの接続

・付属の車両接続用ハーネス(24ピンカブラー)を、純正モニターに接続されていた車両側24ピンカブラーの間に割り込ませるように接続します。(別紙「■配線図」参照)

・付属のGVIFケーブル2本を、車両側GVIFケーブルの間に割り込ませるように接続します。
(別紙「■配線図」、右図、下左図参照)
モニター裏の黒カブラーとHVX本体(Output)、車両側カブラーとHVX本体(Input)を接続します。

※GVIFカブラーはケーブルに貼られているラベルの指示に従って取付けを行ってください。
※青色GVIFカブラーはHVXの取付けに使用しません。純正のカブラーを接続してください。



・付属のHDMI延長ケーブルとUSB延長ケーブルをHVX本体に接続します。(下右図参照)
HDMIケーブルとUSBケーブルは任意の場所に配線を通線します。
外部入力機器の設置位置に合わせて、通線する位置を決めてください。
・HVXの取付けに関連のない純正のカブラーを、全て元に戻します。



8.純正パネルを戻す

純正モニターを取付けし、取外しと逆の手順で純正パネルを取付けます。

4 HDMI入力の切替え、画質調整方法

▽デッキ部分



■HDMI入力映像に切替える方法

※純正リアモニターなし(13.3インチリアシートエンターテインメントシステム非装着車)



①デッキ部分の「AUDIO」ボタンを押し、オーディオソース選択画面で「AUX」を選択します。
HVXT01で入力した映像が表示され、車両スピーカーから入力音声がかかることをお確かめください。

②MAPやPHONEなどの画面からHVXT01で入力した映像に戻るときは、デッキ部分の「HOME」ボタンを押します。
※この操作はオーディオソースが「AUX」を選択されているときのみ有効です。

【画質調整方法】

メニュー画面の「画質・消」ボタンをタッチします。
画質調整モードで画面内の「カメラ」を選択すると、HVXT01で入力した映像の画質を調整することができます。
※「共通」ではHVXT01で入力した映像の画質を調整することはできません。

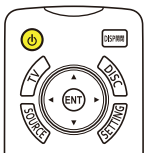


■純正リアモニターでHVXT01で入力した映像に切替える方法

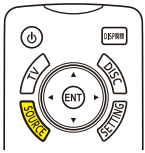
※13.3インチリアシートエンターテインメントシステム装着車

※純正リアモニターでHVXT01で入力した映像を視聴するには、あらかじめHDMI分配器の接続が必要です。
接続方法の詳細は、取扱説明書(別紙)の[接続例3:純正リアモニターにも映像を映す場合]をご参照ください。

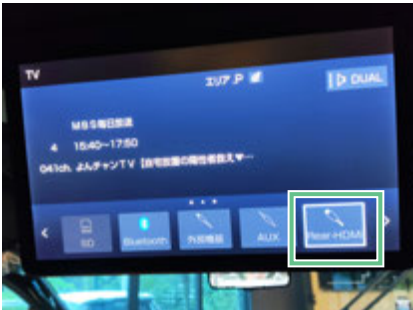
1.リアモニターのソースを「Rear-HDMI」に切替える



①リアモニター用リモコンの電源ボタンを押し、リアモニターの電源をONにする。

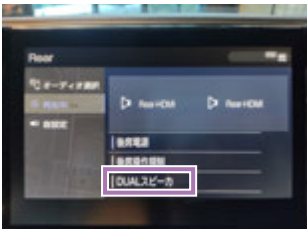


②リアモニター用リモコンの「SOURCE」ボタンを押し、「Rear-HDMI」を選択する。



①デッキ部分の「AUDIO」ボタンを押し、オーディオソース選択画面で「Rear」を選択する。
②MAPやPHONEなどの画面からHVXT01で入力した映像に戻るときは、デッキ部分の「HOME」ボタンを押します。
※この操作はオーディオソースが「Rear」もしくは「AUX」が選択されているときのみ有効です。

前席マルチディスプレイとリアモニターで別々のソースを楽しむには



①オーディオソース選択画面「再生中」タブの「DUALスピーカー」をONにします。

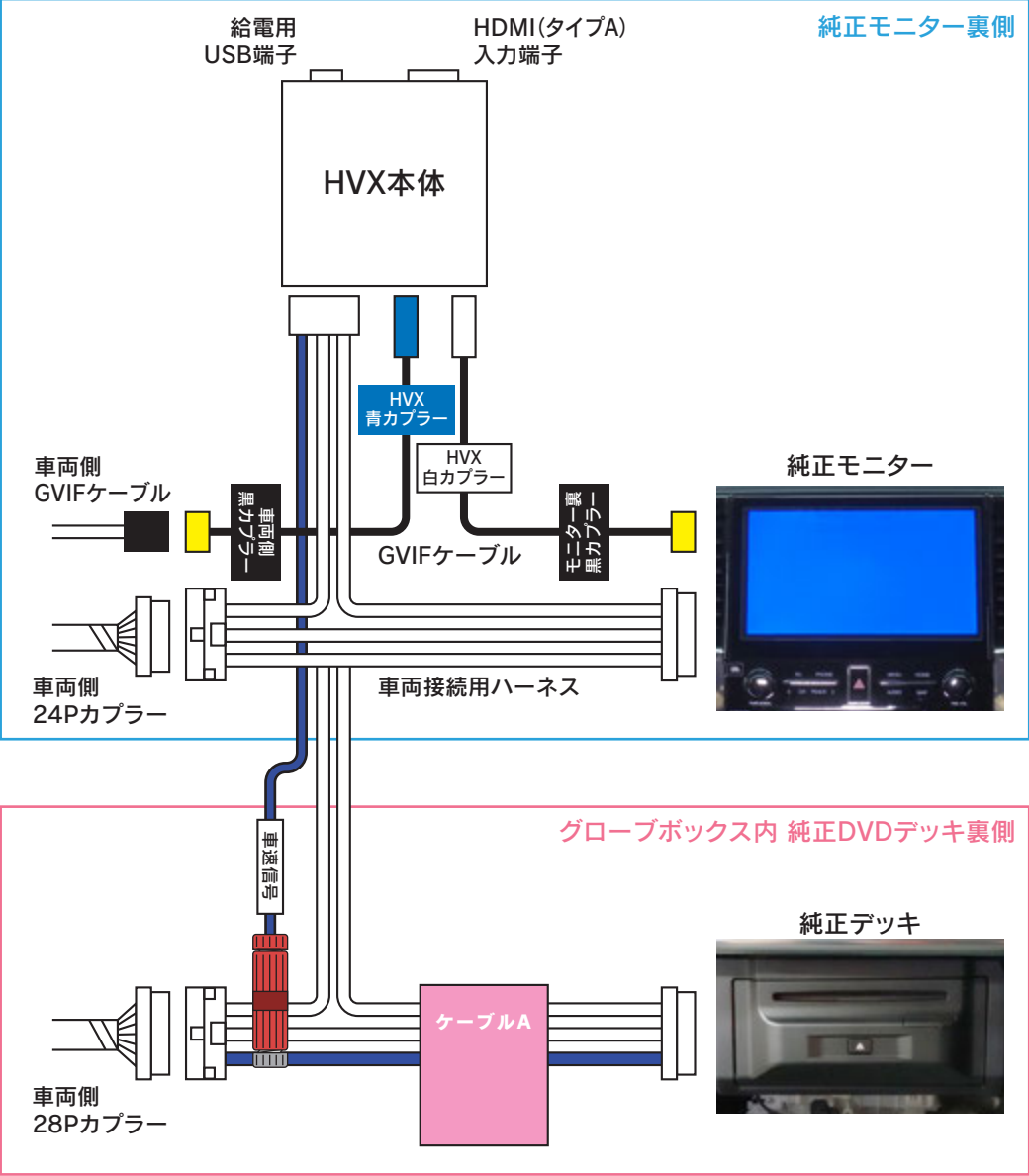
<Tips> DUALスピーカー

前後のオーディオソースの連動をON/OFFすることができます。
ソースの種類によっては前席・後席独立選択が出来ない場合があります。
(前席・後席連動に戻す場合は、「DUALスピーカー」をOFFにします。)

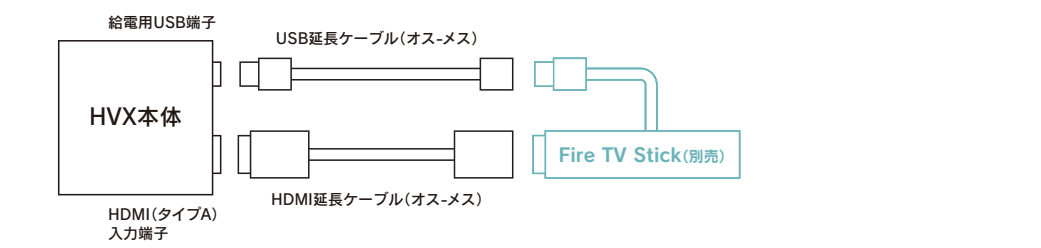


②オーディオソース選択画面で「AUX」を選択してください。

■配線図 「③HVXの取付け」は下図参照

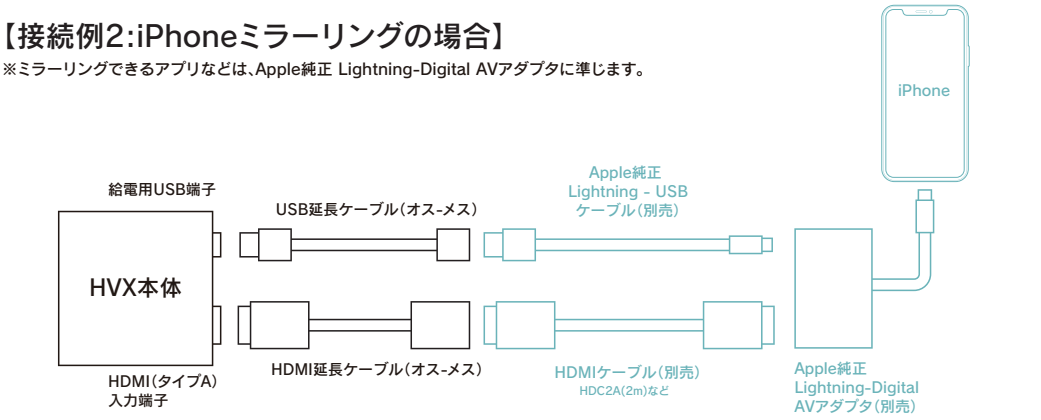


【接続例1:Amazon Fire TV Stickの場合】



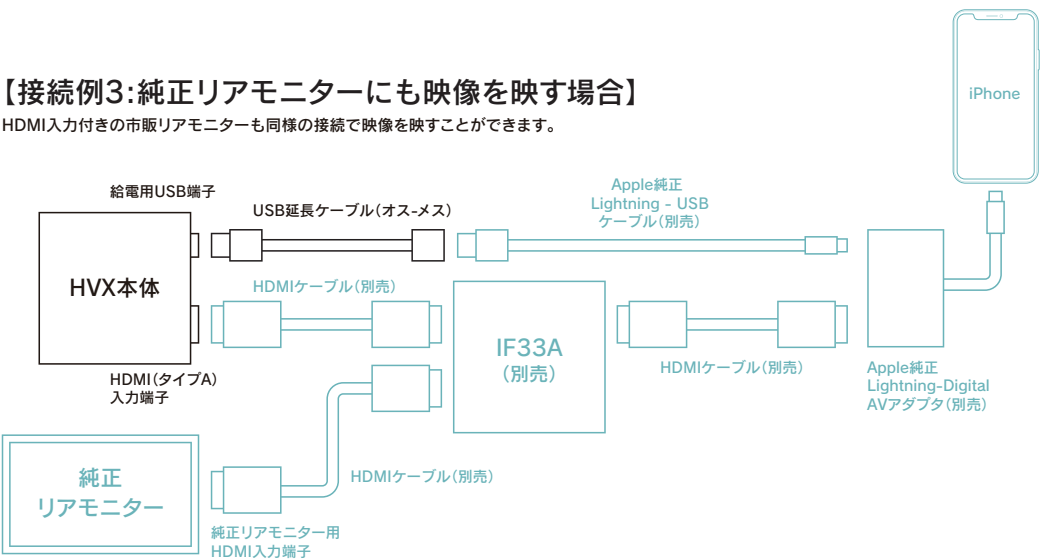
【接続例2:iPhoneミラーリングの場合】

※ミラーリングできるアプリなどは、Apple純正 Lightning-Digital AVアダプタに準じます。



【接続例3:純正リアモニターにも映像を映す場合】

HDMI入力付きの市販リアモニターも同様の接続で映像を映すことができます。



■入力映像(HDMI)について

入力するHDMI機器または映像ソースにより、画面の四隅が切れたり画面端に黒枠が表示されたり、また映像が縦長に表示されることがあります。これは解像度や表示エリア、アスペクト比等が原因で起こる現象であり、各機器の故障ではありません。

以下の説明をご覧ください、接続するソース側の機器や映像ソースをお確かめください。

【対応できるHDMIの解像度】

フォーマット名	解像度	アスペクト比	リフレッシュレート
1080p	1920×1080	16：9	60Hz / 59.94Hz / 50Hz
1080i	1920×1080	16：9	60Hz / 59.94Hz / 50Hz
720p	1280×720	16：9	60Hz / 59.94Hz / 50Hz
576p	720×576	16：9	50Hz
480p	720×480	16：9	60Hz / 59.94Hz

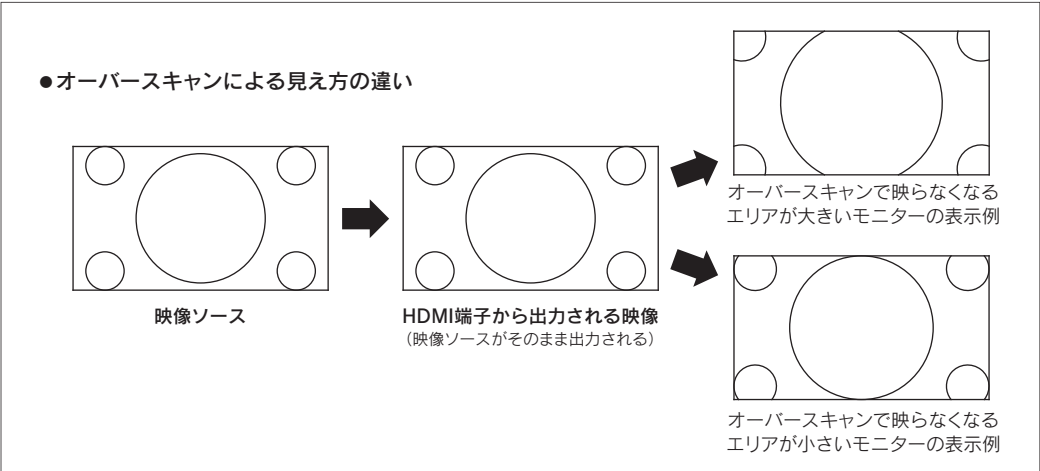
【表示エリアについて】

本製品のオーバースキャンは95%で設計されております。

オーバースキャンとは、画面端の歪みやノイズを隠す為に、画面の四隅をカットする表示方法です。

通常、映像ソースはオーバースキャンによって映像の四隅がカットされることを想定し、字幕などの重要な情報はカットされない範囲に収めるように作成されます。

これに限らない映像ソースを視聴している場合は、オーバースキャンによりカットされてしまう範囲に配置された情報がカットされて表示されます。

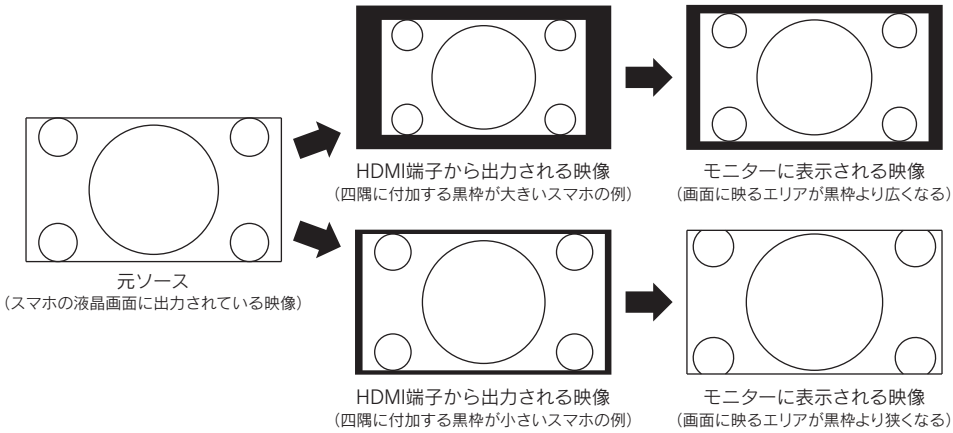


ソース側の機器のオーバースキャンが95%より大きい場合や、アンダースキャン信号を入力した場合は、画面の端の映像が切れて表示されます。

また、95%より小さい場合は、画面の端に黒枠などが表示される場合があります。

ソース側の機器にオーバースキャンの設定が有る場合は、オーバースキャンを95%に設定してください。

●スマートフォンが付加する黒枠の大きさによる見え方の違い



スマートフォン等の映像ソースには予め四隅に黒枠が付け加えられて出力されることがあります。

付け加えられる黒枠の大きさはスマートフォンの機種によってそれぞれ異なるため、モニターに表示されたとき、「黒枠が見える」もしくは「少しカットされた映像」になります。

【画面の縦横比について】

純正モニターのアスペクト比が15:9のため、16:9の映像ソースを入力した場合は若干縦長に表示されます。

アスペクト比とは縦と横の比率のことで、ここでは画面の縦と横のサイズの比率のことをアスペクト比と呼びます。

本製品は、16:9の映像ソースを純正モニターの15:9に合わせて表示させるよう設計されているため、若干縦長の表示になります。

